

調査月日:2016(H28)/09/03(月) 晴れ、ほか  
調査者 :阿部

作成:2016(H28)/12/14 阿部丕顕

〔メモ〕 この資料は補足調査資料として、柳沢コースの状況をまとめたものである。

- ・ 調査の主眼は誘導標識や古来の石標柱等である。したがって、ベースはH28/09/03の踏査であるが、補足的に他日撮影画像も多数収録している。
- ・ この柳沢コースは岩手山神社奥宮への参道でもあり信仰登山に関わる遺跡や遺物が多くあるので、可能な限り資料として収録した。
- ・ 信仰登山関連の遺跡や遺物等については、以下の資料を参照した。

- ① 岩手山の石造文化財 滝沢村教育委員会編S61/3発行
- ② 巖手山記 大正9年7月発行 小原兄磨編著
- ③ 日本の名山 岩手山 高頭式編 1997/3 博品社発行  
(以上は米田良一氏提供による)
- ④ 「岩手山に登るの紀・馬笑」明治41/7/9付岩手時事  
(藤島利久氏提供資料)
- ⑤ 同上漢詩読み下しは佐々木隆三氏提供資料

※ 各地点の標高表示は、GPS特定位置の地形図からの読取り数値である。(概略値)



不動平避難小屋 晴天天下で仲間が毛布干しをしてくれた

(2016/09/03撮影)



馬返し登山口から山頂方向



馬返し登山口 (H≒630m)

(2014/05/19撮影)



東屋底の鐘

「平成十六年六月五日  
一本木山岳会」の彫  
(2015/07/03撮影)



岩手山登山記録システムの説明板  
(2015/10/10撮影)



登山口脇の案内図 (2015/05/19撮影)



「巖手富士」碑と記念碑 (2016/11/02撮影)

岩手山登山道路改良記念  
建立 盛岡市 玉山村  
西根町 滝沢村  
昭和三十九年十二月

記念碑



「巖手富士」石碑

三十一回登山記念  
昭和五年八月八日大坊直浩六十七才  
馬留て ○○○登る  
巖手富士 ○○

(右側面)

(背面)



(H≒750m付近)



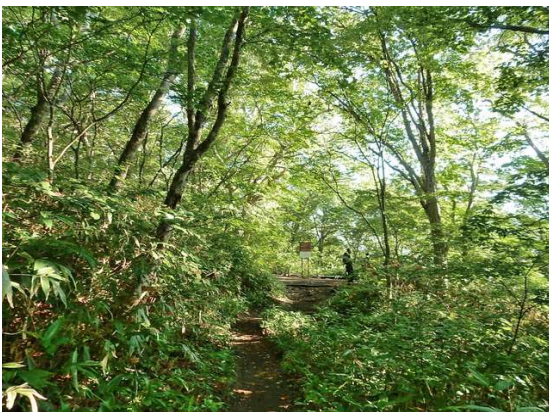
0.5合目 (H≒800m)



古称「コガの縁」付近 (H≒850m)



0.5合目誘導標 (右側面)「←登山口1.3km」 (背面)「↑登山口1.3km」  
「↑山頂(旧道)4.4Km」 「山頂(新道)4.4Km→」  
「H19 岩手県」  
「0.5合目」



1合目付近 (H≒920m)



(2016/10/15撮影)



1合目「笠詰権現」 石祠:文政11年(1828)  
祠の左手前に一合目道程石(新)がある



1合目の道標「左一本木」  
「右盛岡」



(背面)「岩手毎日新聞社  
寄付者 米沢勘一」



「←山頂4.2Km」  
「一合目」



「登山口1.5Km(左)新道(右)旧道」  
「一合目」



火山活動注意表示板



1合目上の古称「大ナメリ」の木造階段等 (H≒930m)  
1997(H9)年頃整備 (2016/10/15撮影)



「大ナメリ」上部の豆腐岩付近 (2016/04/24撮影)



2合目道程石頂部に設置の登山記録ポイント  
(2016/10/15撮影)  
(各道程石に設置済み)



2.5合目直下に残る古い道程石(下部) (2016/10/15撮影)



2合目付近(裸地上部右肩付近)に2合目道程石あり



2合目道程石(江戸時代のもの)  
「紺屋丁市兵衛、幸助」  
(H≒1,015m) (2016/06/06撮影)



2.5合目 (H≒1,060m)  
旧道(左)と新道(右)の分岐点

(2016/10/15撮影)



(正面)「←山頂(旧道)3.7Km」  
「山頂(新道)3.7Km→」  
「二、五合目」



(右側面)  
「←登山口2.0Km」



(2016/10/15撮影)

【これより新道】



3合目 (H≒1,135m) (2016/10/15撮影)  
(正面)「山頂(新道)3.5Km→」  
「←旧道三合目(連絡道)0.1Km」  
「新道三合目」



(右側面)「←登山口2.2Km」



(左側面)「登山口2.2Km→」  
(背面)「H19 岩手県」



3合目直上部に滑落した大岩 (2010/06/30撮影)  
※2010(H22)年6月上旬に確認



4合目 (H≒1,245m)  
(正面)「山頂(新道)3.3Km→」、「新道四合目」  
「←旧道4合目(連絡道)0.1Km」  
(左側面)「登山口2.4Km→」



(右側面)「←登山口2.4Km」  
(背面)「H19 岩手県」



5合目 (H≒1,335m) (正面)「山頂(新道)3.0Km→」 (2016/06/06撮影)  
「←旧道五合目(連絡道)0.1Km」



(左側面)「登山口2.7Km→」



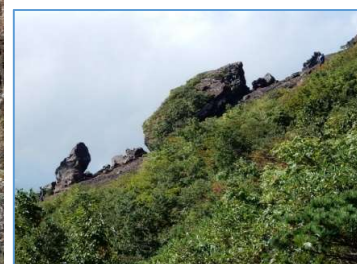
(右側面)「←登山口2.7Km」



6合目 (H≒1,560m)



(正面)「山頂(新道)2.6Km→」、「新道六合目」  
「←登山口(新道)3.1Km」



新道から見る旧道六合目御蔵石 (2016/09/03撮影)



通称「腰掛カンパ」 (H≒1,640m)



ハシゴ箇所 (H≒1,650m)



ロープ箇所 (H≒1,675m)



7合目 (H≒1,640m)



7合目「銚立権現」、石祠:安政3(1856)年5月  
「八日丁 石工長太」



7合目誘導標

(正面)「(左) 山頂2.1km、  
(右) 登山口(新道)3.6km」  
(下)登山口(旧道)3.6Km



八合目避難小屋 (H≒1,765m)



7合目上から8合目方向眺望



7合目道程石(旧)



7合目道程石(新)



八合目小屋前の「御成清水」

※命名は大正4年の北白川宮殿下登山を記念したものとされる



八合目の道程石(新)と誘導標 「←岩手山頂1.7Km」、「馬返し4.2Km→」



八合目「沼宮内権現」(2014/06/26撮影)  
石祠:嘉永四年(1851)  
ゴンゲンサマ:大正九年(1920)



八合目道程石(旧)と沼宮内摂待所跡(道程石の背後)  
「沼宮内権現」は写真中央左上にある (2015/06/07撮影)



八合五夕目道程石(旧) (2015/10/23撮影)  
「仙北町御山講中」の彫がある



不動平避難小屋と不動岩



不動平



不動平分岐誘導標



古い誘導標(2016/08/06撮影)



9合目道程石 (旧) (H≒1,830m)



不動明王立像(享和二(1802) 石灯笼2対  
外に、不動明王座像 文政五(1822)  
嘉永三(1850) 安政五(1858)



不動岩(御不動)

【旧道(7合目～2.5合目間)】



7合目 (H≒1,730m)



6合目御蔵石(上部から)



6合目御蔵石(下部から) 「御蔵権現」



6合目 (H≒1,550m) (2016/10/15撮影)  
御蔵石と道程石(新、旧)



御蔵石の崩壊 (2016/05/15撮影)  
2008(H20)年7月下旬から8月初旬の間に崩壊。その後も部分剥離



5合目 (H≒1,405m) (2016/05/08撮影)



5合目の道程石 (2016/05/15撮影)



駒鳥清水 (2014/06/03撮影)



5合目の道程石(旧)など (2016/10/15撮影)  
(江戸時代のもの)



4合目 (H≒1,255m) (2016/10/15撮影)  
道程石(新) 右の2つは江戸時代のもの



4合目付近から上部展望  
古称:「石パネ」 (2016/05/19撮影)



3合目 (H≒1,138m) 「御立場権現」(2016/06/30撮影)



3合目道程石(新)(2016/10/15撮影)



古い表示板



「二合五タ」道程石 「紺屋丁米屋甚兵衛 六日丁高屋全助」(江戸時代のもの)



【改所跡】 (H≒690m)



けわしい峰の白雪は装束のように美しく映える  
石を蹴りかすらをさぐりながら登る路ははるかである  
遥か富士山はこの世にない色をしており  
それは霞たなびく岩手山を見るに似ている

峻峰白雪映袈裟 蹴石扨蘿登路遛  
遥以芙蓉天外色 似看岩手之煙霞  
後氏姫岳明洗記



左側面の漢詩



「奥乃富士」碑 文政二(1819)  
(正面下部)「国家安全、五穀成就」



右側面の俳句

時志らぬ 爰も 願主 穀丁  
雪安里 岩手山 巴山 高屋長兵衛

風化により文字判読不可のため、下記資料を参照した。  
明治41年7月9日付岩手時事  
「岩手山に登るの記」馬笑  
(藤島利久氏提供)  
※読み下しは佐々木隆三氏  
提供資料による

判読は以下の資料を参照した。  
「日本の名山」岩手山 高頭式  
(米田良一氏提供)